

## 第3 高齢者福祉

## 1 相談事業

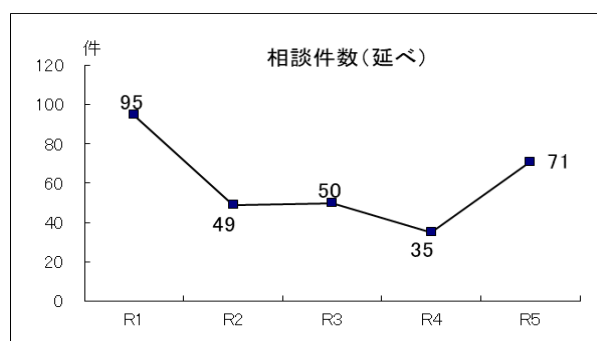
番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	福祉相談			市	

結果の概要

- 相談者の訴えや不安、抱えている問題を傾聴し情報提供や各関係機関へつないだ。
- 地域福祉推進課全体で相談を受け、内容によっては、複数職員で問題を共有し対応した。

実績等

- 相談実施日数 243 日、相談件数 71 件



## &lt;分野別&gt;

サービス別	利用者				合計
	高齢者	障害者	低所得者	その他	
総合福祉センター受託サービス	0	1	0	1	2
社協サービス	1	9	0	4	14
その他の福祉サービス	6	0	0	2	8
他の機関のサービス	9	14	5	19	47
合計	16	24	5	26	71

## &lt;内容別&gt;

相談内容	利用者				合計
	高齢者	障害者	低所得者	その他	
サービスの利用に関する相談	0	7	0	4	11
介護に関する相談	9	3	1	0	13
福祉機器に関する相談	1	2	0	2	5
保健・医療に関する相談	2	1	0	1	4
経済的な相談	0	3	2	4	9
住宅に関する相談	0	0	1	2	3
他の相談	4	8	1	13	26
合計	16	24	5	26	71

分析・課題

- 相談件数が令和4年度より大幅に上回った背景として、年度初めに福祉相談の報告のあり方について地域福祉係内にて再確認したことがあげられる。認識が改められ、相談の捉え方の意識が高まったことにより、これまで件数にあげていなかった報告が計上された。また、新型コロナウイルス関連相談の混沌とした中に埋もれていたそれ以外の様々なお困りごとの訴えも増加傾向にある。

- 「その他」の「他の相談」は、長期にわたる家族間または家庭内の揉め事や相談者と要援護者の居住地区が別（市外・都外）といった複雑な事情が背景にあるご相談がいくつかみられた。
- 相談者は、既に関係機関（地域包括支援センターや障害者支援機関、福祉事務所等）につながりがある方も多いが、そこでは満たされない思いや不安を受けとめる相談窓口として有効に機能した。また、長期化するコロナ禍で孤独感、不安感が増長している方も多く、傾聴する時間も長期化傾向にある。

## 2 通所事業

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	通所介護・国基準通所型サービス（アイビー）			市	○

### 結果の概要

- 介護保険事業として、通所介護事業、介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）を実施し、利用者の心身の機能維持や向上及び社会的孤立感の解消並びに介護者の身体・精神的負担の軽減を図った。

#### <利用人数等>

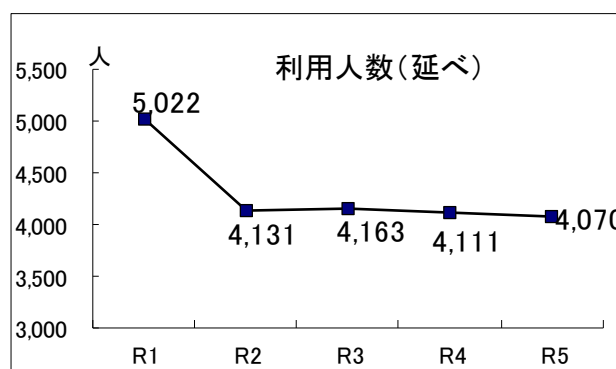
- 利用人数について（1日の利用定員 35人）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施日数	240	243	242	243	242
利用延人数 (通所介護)	4,382	3,620	3,631	3,525	3,491
利用延人数 (国基準)	640	511	532	586	579
利用延人数 (合計)	5,022	4,131	4,163	4,111	4,070
稼働率(%)	59.8	48	49.1	48.3	48.1

- 契約の状況(カッコ内は令和4年度)

新規契約者数	5人(5人)
契約終了者数	8人(7人)

※契約終了者の内訳は入所・入院1人、転居3人、その他4人。



- 利用者の年齢構成 令和6年3月末現在。(カッコ内は令和4年度)

第二号被保険者	40歳から64歳	11人(15人)
第一号被保険者	前期高齢者(65歳~74歳)	19人(22人)
	後期高齢者(75歳以上)	27人(24人)
合計		57人(61人)

○利用者の介護度 令和6年3月末現在（カッコ内は令和5年3月末）

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
人数	4 (6)	7 (6)	9 (10)	22 (21)	6 (6)	8 (9)	1 (3)

<サービス内容>

- 利用者の希望を確認しつつ、機能訓練及び趣味活動の提供を目的として、ネット手芸や刺繍、革細工等、個別に活動を提供した。
- 利用者同士のコミュニケーションを目的とした全体活動（レクリエーション）を提供した。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していた納涼会を再開し、地域で活動している方と交流する機会を提供した。
- 制作活動としてコーヒーゼリー作りを実施した。分量を量ったり、混ぜたりと利用者同士で協力しながら、美味しいコーヒーゼリーを作ることができた。
- 猿田彦珈琲調布焙煎ホールへ外出し、コーヒーを飲みながら会話を楽しむ機会を提供した。
- 専門療法士による訓練

理学療法士	月	火	水	木	金
作業療法士					
言語聴覚士	月		水		金

専門療法士同士で連携を図り、理学療法士・作業療法士が不在時でも訓練を実施することができるよう、看護師による機能訓練を開始し訓練の充実を図った。

言語訓練では、ipad 導入により発話練習、計算練習、音読練習等様々な訓練内容を効率的に実施することができている。また、ネットで検索することができるため、話題が広がり、発話の機会につなげることができた。

- 7月は七夕飾り、短冊の作成、11月には車窓からの紅葉見学、3月には車窓からの桜見学を実施。季節を感じられると利用者からは好評だった。
- 月1回、避難訓練を実施した。スムーズに避難できており、利用者の中で定着している様子が伺えた。
- 食事や水分の飲み込みが難しい利用者に対して、言語聴覚士が嚥下評価を実施した。家族に報告するとともに、職員間でも共有を図り、トロミをつけた食事や水分を提供した。利用者の状態を適宜確認し、状態に応じた食事、水分提供に努めた。
- 服薬については、利用者、家族の要望や利用者の状態に応じて柔軟に対応した。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティアによる給食を状況に応じて中止していたが、令和5年度は全日(台風や雪の影響で中止した日あり)感染対策を講じながら、調理ボランティアによる手作り昼食の提供を行った。(調布市いきいきクラブ調理運営協議会へ委託) 第1部のP83、P84参照。
- 家族交流会・試食会を実施し、ご家族同士で集まり情報を共有する機会を提供した。また、利用者が普段食べている昼食の試食や、ボランティアと交流する機会を提供した。アイビーでの生活を知ることができ良かったとお声をいただいた。
- 食事の前後、口腔内の清潔を保つことと嚥下を促進するために、必要な利用者に口腔ケアを行った。
- 高次脳機能障害支援促進事業の専門医によるスーパーバイズに参加し、新たな気づきや学びを深めることができた。
- 通所介護アイビー利用者を増やすため、市内8箇所の地域包括支援センターを訪問し広報活動を行った。

## ＜その他＞

## ○介護保険収入

年度	介護保険料収入
令和5年度	35,433,139円
令和4年度	28,725,981円
令和3年度	38,633,392円
令和2年度	32,597,579円
令和元年度	43,598,940円

## ○職員研修の実施

4月	コロナの5類移行等社会状況を踏まえた令和5年度事業の検討
5月	プライバシー保護に関する研修
6月	尊厳の保持と自立支援について
7月	業務マニュアルの見直し
8月	BCP作成について
9月	理学療法士による事例検討会
10月	介護現場における事故等防止対策について
11月	言語聴覚士と情報共有、ケース検討
12月	介護現場におけるハラスメント対策について
1月	感染症予防について
2月	BCP作成について
3月	支援員のための記録の書き方について

専門療法士との事例検討や、情報共有会を実施し、疑問点や改善点を意見交換することができた。

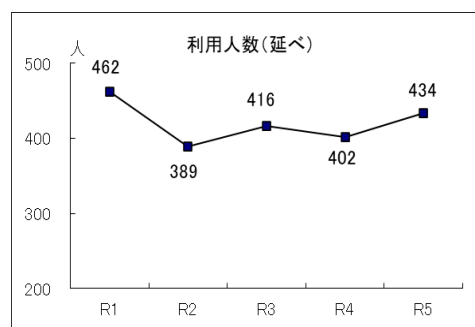
分析・課題

- 調布市内の40歳からの若年層も抵抗感なく利用でき、理学療法士や言語聴覚士等専門療法士の訓練が受けられるデイサービスとしてアイビーが認知されてきている。その特性を引き続き周知するとともに、個々の活動内容や訓練内容についても整備、見直ししていくことが必要である。
- 個別活動や講師による活動、訓練等ご本人の意向を確認し適切なサービスを提供するために、利用者全員とモニタリングを実施した。
- 市外へ転居され、終結となる利用者が多い年となった。また転倒により骨折をされ入院する利用者もいた。転倒に留意するよう専門療法士による助言や、関係機関との連絡も密に図っていく。
- 新規利用相談については、現在通所している利用者のケアマネージャーからの問い合わせが多くあった。言語訓練を希望としているケースが多く占めており、言語訓練のある月・水・金に偏る傾向であるが、アイビーでは個別製作活動の時間も作業訓練の側面を担っていることを伝えるため、言語療法以外の理学療法や作業療法も併せて広報の強化を図っていく。
- 利用者や家族等とのコミュニケーションや職員間の情報共有・連携を深め、情報収集、アセスメント、課題の抽出・明確化、目標設定、通所介護等計画書兼機能訓練(運動機能向上)計画の立案、介護の実施、評価のサイクルを展開することで利用者の生活上のニーズの改善につなげていく。
- 令和5年度「アイビーだより」を作成し、利用者、ご家族、関係機関へ配布をした。アイビーでの様子が伝わるよう行事の写真を多く取り入れることや、職員の顔と名前が一致するよう顔写真を入れる等工夫をした。
- サービスの質の安定、向上のため、研修内容の検討や有識者から助言を受ける機会を確保していく。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	介護予防・日常生活支援総合事業市基準通所型サービス「よつば」			市	

### 結果の概要

- 介護予防・日常生活支援総合事業における、調布市独自の基準による通所型サービスとして実施して7年目、健康の維持増進、心身機能の低下予防を目的に実施した。
- 運動機能向上を目的とした体操や、脳トレ、手先を使った制作活動、講師による陶芸・音楽、アロマオイルを使用したリラクゼーションなどの活動を継続して提供した。
- 利用者から要望の高い外出活動として、令和5年度は車でイトーヨーカドーへ買い物、神代植物公園へバラ見学、府中の森公園へ紅葉見学、青渭社神社へ初詣、武蔵野の森公園へ桜見学に行った。また、コロナ禍で控えていた外食を再開し、矢田部茶屋、夢庵、華屋与兵衛、地域の常設の居場所ふふ富士見での飲食を行い、好評だった。
- 年2回、身体機能検査および個々の利用者と相談員との面談を実施した。また利用者のニーズや課題を地域包括支援センターと共有を図った。
- 活動を紹介した「よつばだより」を3回発行し、利用者および地域包括支援センター、高齢者支援室へ配布した。また、地域包括支援センター8か所を回り、よつばのパンフレットとよつばだよりを配布しながら活動内容を周知し、新規利用に向けた広報を行った。



### 実績等

- 1日の定員は15人。月曜日、水曜日および金曜日の週3日開設している。
- 令和5年度末の利用登録者は8人、曜日ごとの利用者人員は月曜日4人、水曜日3人、金曜日4人となっている。(うち3人が週2回利用。)
- 新規契約者は2人。契約終了者は3人(体調悪化のため)。

	実施日数	利用延定員	利用延人数	利用率
年間	140日	2,100人	434人	20.6%

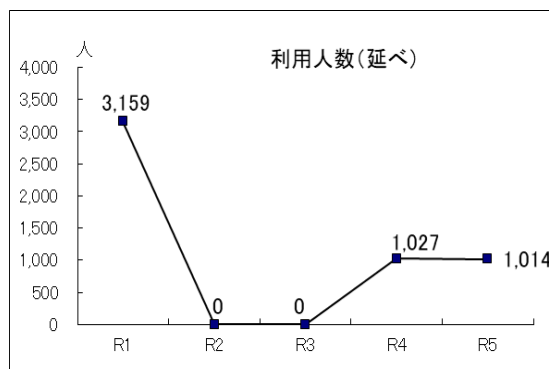
### 分析・課題

- 令和6年度も、利用者と相談員との面談等で利用者から意見・要望を伺いながら活動内容の充実を図っていく。利用者全員で取り組める共同制作にも挑戦する。
- 利用者数の増加を図るため、市報やふくしの窓以外の広報活動にも積極的に取り組む。総合福祉センター1階のウィンドウ美術館に手作りの季節ごとのポスター掲示や利用者全員による共同制作の作品展示を行う。また、よつばだよりを引き続き定期的に発行し、地域包括支援センター8か所および高齢者支援室へ配布するとともに、社協ホームページにも掲載し広報する。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(3)	ふれあい給食			市	

### 結果の概要

- 1年を通じ月2回の活動を実施できた。給食は4校のうち3校で9月から再開、石原小学校のみ給食室改修工事に伴い軽食提供での対応とした。
- 新型コロナウイルス5類化を受け、利用者のマスク着用は個人判断としたが、協力員はマスクを着用、換気、消毒、検温の感染対策は引き続き行った。
- コロナ禍以前の活動を目指しながら、各学校利用者の状況に合わせて活動を行った。
- 利用者数の減少があり、利用者募集を開始した学校もあった。
- 協力員への伝達・情報交換等を目的とした定例会は4校全てで定期的実施した。
- 高齢者見守り事業（ふれあい給食、友愛訪問、ほのぼの電話訪問）に協力いただいている協力員・訪問員を対象とした合同研修会を4年ぶりに開催した。
- 地域の祭りへの舞台発表、作品展示での参加を行った学校もあった。
- 授業交流や卒業する児童への手作りプレゼント作成など、少しずつ児童との交流も再開した。



### 実績等

	実施回数 (回)	年間延 利用者数 (人)	登録 協力員数 (人)	年間延 協力員数 (人)
染地 (火)	24	131	6	101
(水)	24	210	5	91
緑ヶ丘 (水)	24	98	12	91
(金)	24	114		94
石原 (木)	24	163	9	91
(金)	24	182		87
北ノ台 (木)	24	116	7	99
合計	168	1,014	39	654

### 分析・課題

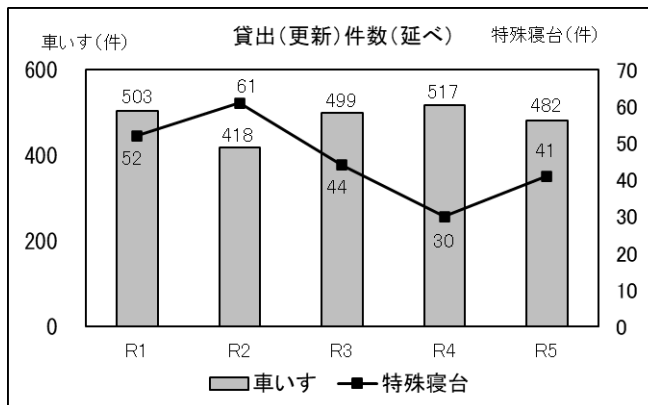
- 心身状況の低下により利用継続が困難となったり、他の介護サービスへ移行されたりする利用者が増えた。
- 既存の利用者についてもこれまでより見守り・手助けが必要な場面が増えている。安心・安全な事業運営のためにも、利用者の要件見直し等を検討する必要があると思われる。
- 新規利用者および協力員の獲得に向けた広報活動の強化は急務である。

### 3 福祉機器の貸出し

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	福祉機器の貸出し		市		○

#### 結果の概要

- 高齢者や障がい者等、体の不自由な方を対象に車いす、特殊寝台を貸し出し、本人及び介護者の利便を図った。
- これまでに1度も車いすを使用したことがない方に対しては、安全に利用していただくために貸出時の説明をより丁寧に分かりやすく行った。
- 長期休みで貸出し台数が増えること等を予測、新たに車いすを購入し台数を増やし対応した。また寄付としても1台受け入れを行った。



- 定期的に貸出し状況を点検し、更新手続きが滞っている方には個別に連絡を取り、状況を確認した。
- 車いす修理ボランティアによる修理・点検は、年6回の予定を第1回のみ中止とし、全5回実施した。こころの健康支援センターのグループ活動による車いす修理も2回実施した。
- 年度末にかけて特殊寝台の相談・貸出件数が急増。また、学生などの若年者の車いす利用も増加した。

#### 実績等

貸出機器	車いす	特殊寝台
貸出・更新件数	延べ 482 件	延べ 41 件
利用者数	374 人	15 人

#### 分析・課題

- 車いす新規申請者や長期利用者の増加、相談件数の増加等に備えて、令和5年度は3台購入。今後の需要増を考慮し、引き続き新車購入および寄付の呼びかけにより、車いすの安定確保に努めたい。
- 昨年度と比べて車いすの貸出・更新件数は減少したが、一方で学生などの若年者の転倒骨折等で急に歩行困難になった申請者が急増した。
- 長期滞納者については、何らかの問題を抱えている場合が多く、引き続き地域福祉コーディネーターや地域包括支援センターとも連携しながら支援に結び付けたい。

#### 4 地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）

番号	事業名	決算額(円)			
		自主	補助	委託	事業
(1)	地域支え合い推進員 (生活支援コーディネーター)			市	

#### 結果の概要

- 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心・安全に生活ができる地域を実現するため、地域包括ケアシステムにおける「生活支援」及び「介護予防」の推進を目指した。
- 下半期に地域支え合い推進員を2人増員し、8つの福祉圏域全域に配置した。これまで6人の地域支え合い推進員で行ってきた支援やニーズ調査が拡充され、より多くの高齢者等のニーズを把握することが可能となった。新たに配置された2つの圏域では、「健康体操、ウォーキング」、「スマホ情報交換会」、「認知症の啓発・見守り訓練」等、特徴を活かした生活支援に資する取組の主催や協力を行った。
- 第1層地域支え合い推進員（調布市高齢者支援室）が主催するセカンドライフ応援キャンペーンに参加し、同取組の普及啓発活動に協力した。
- ひだまりサロン事業の運営を行い、サロンの担い手や参加者のニーズ把握・課題解決に努めた。
- 東京都社会福祉協議会等が行う研修に主に参加するとともに、室田信一氏（東京都立大学准教授）によるスーパービジョン（指導・助言等）を受け、職員の資質向上に努めた。また、東京都社会福祉協議会が実施する第2層生活支援コーディネーターの研修では、地域住民とともに講師を務め、活動報告を行った。
- 第1層地域支え合い推進員から依頼を受け、CDC運動（※）において、活動の開催場所、地域住民への説明会の実施、周知・普及等、地域資源とのマッチングに協力した。

（※）調布スマートシティ協議会メンバーである、調布市、国立大学法人電気通信大学、アフラック生命保険株式会社による「つながり創出による高齢者の健康増進事業～CDC（調布・デジタル・長寿）運動」の取組。

福祉圏域 (小学校区)	主な担当地域
緑ヶ丘 滝坂	仙川町1～3丁目、緑ヶ丘1・2丁目、 菊野台1丁目の一部、 東つつじヶ丘1～2丁目・3丁目の一部、 西つつじヶ丘1～4丁目の一部、若葉町1丁目の一部
若葉 調和	東つつじヶ丘3丁目の一部、 西つつじヶ丘3・4丁目の一部、入間町1～3丁目、 若葉町1丁目の一部・2・3丁目、国領町8丁目の一部、 菊野台1丁目の一部・2・3丁目
上ノ原 柏野	佐須町1丁目の一部・2丁目・3丁目の一部・4・5丁目、 柴崎1・2丁目、菊野台1丁目の一部、 西つつじヶ丘1丁目の一部・2丁目の一部、 調布ヶ丘3丁目の一部、深大寺元町2丁目の一部、



	深大寺東町 2 丁目の一部・3・4 丁目、 深大寺南町 1～3 丁目の一部・5 丁目の一部
北ノ台 深大寺	深大寺北町 1～7 丁目、佐須町 1 丁目の一部、 深大寺元町 2 丁目の一部・3～5 丁目、 深大寺東町 1 丁目・2 丁目の一部・5～8 丁目、 深大寺南町 1～3 丁目の一部・4 丁目・5 丁目の一部
第二 八雲台 国領	佐須町 3 丁目の一部、調布ヶ丘 2 丁目・3 丁目の一部、 八雲台 1・2 丁目、国領町 1～5 丁目、8 丁目の一部、 布田 2・3 丁目
染地 杉森 布田	国領町 6・7 丁目、染地 1～3 丁目、 布田 5・6 丁目、多摩川 6・7 丁目
第一 富士見台 多摩川	富士見町 2 丁目の一部、下石原 1～3 丁目の一部、 小島町 1～3 丁目、多摩川 1～5 丁目、布田 1 丁目・4 丁目、 調布ヶ丘 1 丁目・3 丁目の一部・4 丁目、深大寺元町 1 丁目
第三 石原 飛田給	飛田給 1～3 丁目、上石原 1～3 丁目、 富士見町 1 丁目、2 丁目の一部・3～4 丁目、野水 1・2 丁目、西町

## 実績等

### <共通>

- 地域包括支援センター等の関係機関と「介護予防の普及啓発」、「健康増進に向けた活動」、「地域資源の開発」、「個別に支援が必要な高齢者の支援の連携」といった協力・協働を行った。
- 地域への訪問支援を通じて受けた、新規ひだまりサロンの立ち上げ相談や運営に関する相談等に対し、地域情報や資源の紹介、他の地域活動とのマッチングを行った。
- ふくしの窓、調布 FM といった広報媒体を積極的に活用し、活動の周知を図った。
- 第 6 次調布市地域福祉活動計画の策定において、8 つの福祉圏域別策定会議と市全域策定委員会を開催し、総勢 169 人の地域住民等が参画した。地域ごとの特性や強み、想いを反映させた活動計画が完成した。

### ①行動区分（件）

福祉圏域 (小学校区)	訪問	来所	電話	メール	その他	合計
滝坂・緑ヶ丘	312	35	157	112	72	688
若葉・調和	318	80	226	140	63	827
上ノ原・柏野	132	34	98	6	51	321
北ノ台・深大寺	349	50	200	164	97	860
第二・八雲台・国領	253	63	211	383	84	994
染地・杉森・布田	333	58	146	87	51	675
第一・富士見台・多摩川	202	36	71	35	62	406
第三・石原・飛田給	332	52	93	61	31	569
合計	2,231	408	1,202	988	511	5,340

## ②相手方区分（件）

福祉圏域 (小学校区)	当事者	地域住民	ボランティア NPO	行政 (福祉)	行政 (福祉以外)
滝坂・緑ヶ丘	11	555	31	36	20
若葉・調和	132	392	94	54	41
上ノ原・柏野	111	370	85	52	39
北ノ台・深大寺	64	383	267	53	12
第二・八雲台・国領	14	745	582	20	7
染地・杉森・布田	75	429	370	102	75
第一・富士見台・多摩川	13	318	25	55	24
第三・石原・飛田給	25	395	141	32	46
合 計	445	3,587	1,595	404	264

地域包括 支援センター	民生児童委 員	その他 専門機関	企業 商店	調布社協	その他	合計
64	39	109	38	278	15	1,196
87	92	105	34	167	13	1,211
82	90	101	31	160	12	1,133
98	20	88	21	190	11	1,207
41	161	60	105	250	264	2,249
113	186	218	122	212	11	1,913
79	67	57	62	206	18	924
61	105	99	70	249	51	1,274
625	760	837	483	1,712	395	11,107

分析・課題

- 令和4年度と比較すると行動区分は数字に大きな変化が見られないが、一方で相手方区分が約4倍程度増えていることから、一度の訪問でより多くの住民や機関とコンタクトしていることが分かる。相手方区分では、地域住民との関わりが約1.5倍以上に増えていることから、感染症の5類分類によって集まることが可能になったことに加え、協議体を含む地域の会議などへ参加することが増えたことが確認できる。また、他の相手方との関わりも増えていることから、これまでの地域支え合い推進員と住民・関係機関と1対1という構図も多かったが、多くの地域活動や活動者と関わる中で存在（役割）が認知されてきているように感じる。
- ニーズの確保に向けた取組を福祉圏域ごとに行い、一定の成果が見られてきている一方で、活動の担い手の確保が引き続き課題と言える。第1層地域支え合い推進員、地域福祉コーディネーターやボランティアコーディネーター等と情報共有しながら、連携を図っていきたい。
- 日報の活動区分について、地域住民により分かりやすい項目となるよう、変更について第1層地域支え合い推進員との協議を検討したい。